

(様式1) 施設の設置に関する方針

主要な施策	整備水準				長期目標	事業の重点化・効率化の方針	中期目標を達成するための主要な事業	備考
	指標等	現在 (令和2年度末)	中期目標 (令和6年度末)	整備水準				
汚水処理	下水道処理人口普及率	86.1%	82.5%	84.7%	「栄町汚水適正処理構想」(平成28年度策定)に基づき、汚水処理の10年概成を目標とし、人口密度が高い地域から優先的に整備を実施する。	酒直第1処理分区の整備		
浸水対策	都市浸水対策達成率 (整備面積)	60.5mm/hr	57% (290 ha)	71% (362 ha)	100% (512 ha)	浸水被害リスクの高い箇所から優先的に整備を進める。	長門川第六排水区の整備	全体計画に対する整備比率
汚泥の再生利用	消化ガスの有効利用率	消化ガスの燃料としての有効活用(消化タンク加温燃料)	100%	消化ガスの燃料としての有効活用(消化タンク加温燃料)	100%	現状と同様に消化ガスの有効利用(消化タンク加温)を続ける。	—	
	再資源化率	脱水ケーキを民間業者に委託の上、再資源化	100%	焼却灰を民間業者に委託の上、再資源化	100%	汚泥の再利用を処分業者との契約条件としており、今後も継続する。	—	
震災対策	管路施設 (耐震化率)	管路継手部の耐震化 3.2 km (10.8%)	8.0 km (31%)	25.6 km (100%)	優先順位に当たって、概ね次の順に事業を進める。①処理場付近の幹線の耐震化、②緊急輸送路のMH浮上対策、③重要幹線の耐震化(平地部)、④重要幹線の耐震化(台地部)、⑤防災上重要な枝線の耐震化	・第Ⅱ期総合地震対策計画の更新 ・次期総合地震対策計画の策定 ・総合地震対策事業の実施		
	ポンプ施設 (耐震化率)	可とう性継手 0箇所 (0%)	2箇所 (100%)	2箇所 (100%)	先ず、特に重要な幹線等の排水を受けける安食中継ポンプ場の耐震化を図る。その後、各ポンプ場の優先順位に従い、順次、耐震化を実施する。			
	処理施設 (耐震化率)	可とう性継手等	0箇所 (0%)	3箇所 (100%)	3箇所 (100%)	先ず、可とう性継手(流入渠、放流管)とパイプ管の設置を行い、次に管理本館の耐震化を図る。その後は施設の優先順位に従い、順次耐震化を実施する。		
		処理場施設	0箇所 (0%)	1箇所 (0%)	全箇所 (100%)			